

オットセイの習性の理解とふれあいのアドバイス



かつて絶滅近くまで狩猟された南極のオットセイ(オットセイ科ガジラ)は劇的にその数を取り戻し、その数は世界中で500万頭を超え、そのうち95%以上がサウスジョージアを繁殖の場所として使用しています。オットセイは陸上でも水中でも上手に移動し、繁殖期には非常に攻撃的になることがあります(11月~1月)。夏の終わり(2月~4月)に母親と子供が海岸から草むらに移動し、しばしば驚くほど内陸に移動します。人間の観光客に驚かされると、容易にびっくりさせられ、攻撃的な反応を示しがちです。

オットセイの天然の性質を知ることが重要です。ツアーを計画する際には、海岸に上陸するオットセイの習性と数を考慮する必要があります。

個体ごとに異なり、それを承知の上でそれぞれのオットセイにふれあう必要があります。下記の説明は現地のスタッフと乗客がオットセイとふれあう際に最も適切な選択ができるように現地のスタッフとオットセイ生物学者から集められました。

可能な限り、オットセイが海岸に上陸している時、オペレーターは最低限の一時的な影響以外を与えるべきではありません。

一般的なオットセイの習性の理解:

- オットセイはもろいまたは滑りやすい地形で人間よりもかなり早く移動することができます。
- オットセイは陸上で非常に速く移動することができますが、速く停止することができません。オットセイから一定の距離を開けてください。
- オットセイが他の動物や人間の存在に対する警告の行動に注意します。このような行動だけに限定されません。
 - 警戒の増加
 - 頭を回転させる
 - 横たわっている状態から直立の姿勢に変わる
 - 他のオットセイの「テリトリー」や訪問者に向かって移動することを含むあらゆる方向への素早い移動
 - 口を開けた威嚇行動、荒い鼻息、クンクンという鳴き声
 - 攻撃的行動または偽の突撃
- 上記の行動が見られた場合、特に注意します。

- 防衛する際にオスは多くの場合、警告を出しますが、メスや子供は先に噛みつき、逃げ出す傾向があります。
- 母親が摂食する際、子供たちが放置されることがよくあります。一頭の子供が放置されることはありません。



繁殖期のオットセイの習性の理解:

- 繁殖期(11月～1月)にオットセイは人間の存在や匂いに特に敏感です。ハーレム近くの人間の存在はオス、メスいずれかからの非常に攻撃的な反応の原因となる可能性があります。
- 繁殖期中、オスは先に海岸に到着し、特にメスが上陸し、出産を迎える時に強く防衛しようとする通常5平方メートルのテリトリーを準備します。
- オットセイは自分のテリトリーの境界線を知っていますが、訪問客はこの境界線を簡単に見分けることができません。上陸した際には常にこのテリトリーの境界線を超える危険性があります。オットセイの集団の周りでは可能な限り注意するべきです。
- 動揺したオットセイは他のテリトリーに移動したり、ハーレムをかき乱したり、オットセイ間のけんかの原因となったり、自分や他のオットセイ、特に子供を傷つける危険性があります。この行動はオットセイが移動し、休んでいるペンギンや他の野生の動物を妨害するというドミノ倒しの原因となる可能性があります。
- 繁殖期中に海岸を散歩する時、ハーレムの周りにはより長い距離が必要です。一頭のオットセイはそれほど距離は必要ありませんが、状況は変わる可能性があります、状況により、判断する必要があります。
- 可能な限り、複数のメス(子供がいる場合もない場合があります)と一頭の支配するオスからなるハーレムを妨害したり、囲んだりしないでください。
- ハイシーズンの混雑した繁殖が行われている海岸では多数のオットセイや強いテリトリーの防御のため、上陸することができない可能性があります。ゾディアッククルーズは多くの場合オットセイと訪問者を同等に守る好ましい選択肢です。



陸上でのオットセイの見学：

- **リーダーの指示に従います。リーダーは、あなたに安全かつ最高の経験をしてもらうことを願っています。**
- 陸上でもボートからでもオットセイを脅かす可能性のある突然の動きをしたり、凝視しない。
- 海岸ではオットセイの間に入らず、オットセイよりも内陸を散歩する。
- 近づきすぎると陸上でオットセイが上手に移動できること（また、噛む可能性があること）に注意する。突撃してきたオットセイから逃げる必要がある場合に備え、「逃げ」道を確認する。
- 多数のオットセイの近くを移動する際にはグループでできるだけ素早く行動します。
- 大人のオットセイ、特にオスの近くで横たわりません。
- 個体が向かってきた時や急いで水中に入った時にはゆっくりと注意深く対応するべきです。
- オットセイの子供は多くの場合、非常に好奇心が強く、乗客に近づいてくる可能性があります。オットセイの子供を触ったり、誘ったりしません。小さいですが、子供も怪我の原因となります。
- 動揺したオスのオットセイから離れます。
- 草むらにいる動物に注意します。オットセイから距離を保つため、フィールドガイドは杖または同等のものを使用します。



- オットセイと訪問者がお互いに見ることができない草むらのエリアでは、通常の騒音レベルを保つことをアドバイスします。これにより、動物は人間の存在に警戒し、攻撃的な反応につながる不注意に脅かされることがありません。
- オットセイの口にはすぐに感染する恐れのある無毒の菌があります。オットセイに噛まれた場合には医療専門家の検査、洗浄、監視を受けるべきです。小さな傷でも感染の原因となる可能性があります。

オットセイの繁殖期の海岸

